

第 41 回奈良市子ども・子育て会議 会議録			
開催日時	令和 7 年 11 月 11 日（火） 午後 1 時～午後 2 時 40 分		
開催場所	オンラインを併用したハイブリッド形式 ※本会場は奈良市役所 北棟 6 階 602 会議室		
出席者	委 員	大方会長、清水副会長、大向委員、梶木委員、栗本委員、櫻井委員、重松委員、白井委員、辻中委員、西山委員、村井委員、山野委員、渡邊委員 【計 13 人出席】	
	事務局	【子ども未来部】 保田子ども未来部長、玉置子ども未来部次長、 田村子ども未来部参事、榊原子ども未来部参事、 松田子ども政策課長、譚田幼保こども園課長、 中村子ども給付課長、小島子ども育成課長、 片岡子ども安心課長、岡本子ども家庭支援課長 【保健所】 米野母子保健課長 【教育委員会事務局】 原田放課後児童育成課長、西村学校教育課長	
開催形態	公開（傍聴人：0 名）	担当課	子ども未来部子ども政策課
議 題 又は 案 件	1 案件 （１）各部会委員の指名 2 報告案件 （１）第二期奈良市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況 3 その他		
決定又は取り 纏め事項	・新任の公募委員について、各部会委員に指名された。 ・第二期奈良市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について、ご意見に対する回答をとりまとめた資料を提示し確認いただいた。		

議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等

1 案件

(1) 各部会委員の指名

以下のとおり決定

子ども条例部会：大向委員、白井委員

<特に意見なし>

2 報告案件

(1) 第二期奈良市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況

・事務局より、「第二期奈良市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況」の委員からのご意見に対する回答について、説明を行った。

・委員より、これまでの経験から評価の難しさは痛感しているが、市民にとって見やすい評価手法とすることが大事なため、KPI の明確化が望ましい。実施件数よりその効果で評価することが大事ではあるが、指標設定しにくい事業もあるため、その場合は、実績値をベースに目標値を設定し、前年度比較で成果を見ても良いという意見があった。

相談事業の KPI については、事業の広報をしっかりと行い、相談件数が増加することが良いかと考えると、相談すべき事案の増加は社会的にはよくないため、例えば解決した件数などを指標として検討することも大事。目標値の設定が難しいこともわかるが、一旦決めてみるのも手法であると意見があった。

評価は、Aを達成するためには、予算的措置が必要などの課題を意識していくことも大事であると意見があった。

・委員より、なぜB・Cと評価したのか記載し、担当課としての評価理由を知れた方がよいと意見があった。

・事務局より、コロナ禍等の特殊事情により、目標値と実績値が乖離している事業もあるため、それを見込んだ評価結果としているが、現状それに至った理由を評価シートから読み取れないので、明確化出来るよう、機械的な実績判定の導入と、自己評価との対比による理由説明を記載する様式を検討すると回答した。

・委員より、評価と予算決算の兼ね合いについて、目標達成に向けて予算化を行い、事業を実施しているはずなので、基本はAまたはB評価となるはずだが、C評価の場合は、予算や人手が足りない等、いろいろな事情により目標達成が困難となっている可能性がある。その場合は、目標設定がおかしいという見方をした方がよいかもしれない。一生懸命頑張っても報われないものではなく、次につながる

評価の仕方が見えるようにすると良いと意見があった。

- ・委員より、ハード面で親子寄り添いチャット等の AI などの活用で職員の負担を減らし、ソフトについては、個々のニーズに応じて、導いて欲しいと意見があった。
- ・事務局より、市民にとっても使いやすい AI 等を活用した手続きを進めていきたいと回答した。
- ・委員より、AかBであれば進捗面は問題ないが、C評価の場合は、その理由とリカバリーできるかが記入されていれば良いという意見があった。
- ・委員より、質的保証の方が大事なため、数値目標は柔軟にしていこうとすることで、質を良くしていく転換を図ると良いと意見があった。
- ・委員より、予算に対し、決算額を抑えたから良い評価とすることは疑問である。相談事業は、目標値に対して件数が達しなくても、相談件数自体は少ない方が良く考える一方で、事業費が少ないまたは職員が足りず、相談電話が繋がらないのであれば、相談件数が少ないから良い評価とするのは適当ではない。そう考えると、画一的なルールで各評価は確定しにくいという意見があった。
- ・委員より、広報について、知りたい情報にアクセスしやすくするためには、場所や媒体を分けた方がいいか、一元化した方がいいか等、何が正解なのかは課題であると考えているが、AI を用いて解決できれば良いと意見があった
- ・委員より、100 以上の事業を進めても、少子化に歯止めがかけられないなど、環境が大きく変わってきている。人口減少を念頭に、今後どのように市民が満足する市にしていくのか、何を基準に指標をつくるのかについて考えていく時期にあると意見があった。

3 その他

(1) 自由議論

- ・委員より、酷暑での外遊びや支援をどのように考えているかと質問があり、また、中高生世代の意見聴取などの若者支援を検討していく必要があると意見があった。
- ・事務局より、こども園・保育園はWBGTの数値が上がる前の 11 時ぐらいまでに全学年がプールに入り終え、その後は、冷房の効いた保育室の中で遊んでおり、10 月後半頃から、思う存分、外で遊んでいるという状況であると回答した。

- ・事務局より、子育てひろばや子育てスポット、にじいろもあるが、室内の遊び場を確保し、今後も広げていきたいと回答した。
- ・事務局より、クーラーがある大宮児童館の体育館は活用していただいているが、ほかの児童館の体育館はクーラーがなく、活用が難しい状況であると回答した。
- ・委員より、空調等がないことは課題であり、せっかく体育館があるなら、予算取りなどをお願いしたいと意見があった。
- ・事務局より、若者支援の主な取り組みは、第三期計画を策定するタイミングで記載しているが、中高生或いは大学生の声を聞いた統計的なものがないことが課題のため、ニーズを踏まえながら、各課と取り組みたいと回答した。
- ・委員より、質のいい教育・保育をしていく時代である一方、担い手側の確保が課題であり、人材確保という点で、市の支援を望みたいという意見があった。
- ・事務局より、民間施設への支援として、処遇改善の補助金を1人当たり月2万円支給、また、保育教育士の資格取得時の学費補助のほか、公私立園で協力して就職フェアなどを実施しているが、厳しい状況のため、アイデアがあれば頂戴したいと回答した。
- ・事務局より、バンビホームの支援員が増えないことは全国的な課題であり、民間の広告媒体の活用や、処遇面の改善を進めていると回答した。
- ・委員より、教育・保育の魅力発信において、中学校での現場体験や、教育委員会と連携して家庭科の授業の中で「衣食住」に加えて「保育」について取りあげて魅力を伝えることも大切であり、一方で、周辺領域の仕事内容の見直しも大切であるという意見があった。
- ・委員より、民間園同士で保育者の派遣や別の法人と研修会を一緒に実施する事例の紹介があった。奈良市では、バンビーノプランが整備されていることから、これをベースにすることで、公立園と民間園で保育者をシェアする仕組みを構築できるのではという意見があった。
- ・委員より、人手不足による不適切保育等の防止に今が瀬戸際であるため、保育士になるまでの支援を考える必要があるという意見があった。
保育士に対する処遇改善事業では、幼稚園教諭は対象外となっていることから、幼稚園教諭という職業の魅力や価値が相対的に低下することを懸念するという意見があった。

- ・委員より、酷暑での外遊びが困難な中であっても、子ども達の体力を落とさず走り回れる環境を提供する場として、小学校の体育館開放ができないかという質問があった。

- ・事務局より、担当課が不在のため、教育委員会に伝えておくと回答した。

- ・委員より、酷暑でも体を動かせる屋内型施設が欲しい。一方で、体育館開放については、来年夏に空調設備の全校配置が予定されているものの、部活の地域展開で学校側の判断も難しくなり、先生の負担になっている。また、職業体験・職場体験は、子ども達がすごく成長するため、機会をどんどん設けてあげて欲しいという意見があった。

広報について、本当に悩んでいる保護者は必要な情報にたどり着けないという課題は各課共通であるという意見があった。

- ・委員より、他自治体の図書館の「調べる学習コンクール」のように、子どもの居場所、酷暑の過ごし方という観点からも、地域の方や有資格者を巻き込みながら調べ学習をし、意見を発信する機会があると良いという意見があった。

- ・委員より、子ども・子育て会議への高校生や大学生のような子ども・学生の参加を検討しないかと質問があった。

- ・事務局より、参加する子ども・若者当事者に相応の負担がかかる一方、参画機会が限定的になるため現時点では見送っており、各分野で事業を進める際に、当事者の意見を聴く機会を設けるよう促していると回答した。

(2) 子ども会議開催報告、子ども・子育て支援事業計画の事業評価表の見直し

- ・事務局より、「子ども会議開催報告」「子ども・子育て支援事業計画の事業評価表の見直し」について、説明を行った。

- ・委員より、目標値の設定に関係してくる内容のため、この方向で進めて欲しいと意見があった。

- ・委員より、市内在勤者への病児保育などの提供について、市への移住促進として、関係規則等を考えることも重要であるという意見があった

- ・委員より、子ども・子育て会議の視点は市内在住者になるが、行政の在り方のアイデアとして考えると良いという意見があった。

資 料	<p>【資料１】奈良市子ども・子育て会議委員名簿</p> <p>【資料２－１】第二期奈良市子ども・子育て支援事業計画（奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン）令和６年度進捗状況一覧</p> <p>【資料２－２】第二期奈良市子ども・子育て支援事業計画（奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン）令和６年度進捗状況に対するご意見及び対応状況（概要のみ）</p> <p>【別添１】令和７年度子ども会議意見書</p> <p>【別添２】事業評価表の見直し素案</p>
-----	---